



「未来の南越前町」図画コンテスト（小学校3～4年生の部）最優秀賞 岩居洋輝さん

基本構想

- 第1章 町の将来像
- 第2章 計画の基本指標
- 第3章 ゾーニング別まちづくり
- 第4章 まちづくりの5つのプロジェクト

第1章 町の将来像

1 まちづくりの基本理念

まちづくりの目的は町民の誰もが豊かに暮らすことができる環境づくり、条件づくりを計画的、総合的に推進していくことにあります。本町のまちづくりを進めていくため、時代環境の急速な変容に適応しつつ、個性ある町づくりを進めることが必要です。

このことを実現するため、これから始まる時代を展望して、計画の基本理念を、

海と緑と歴史の恵みに^{いだ}抱かれて、出会いから活力の花ひらく町

と設定します。(合併時に策定した南越前町まちづくり計画の基本理念を継承しています。)

海と緑

海と森の豊かな自然に囲まれて私たちは生活しています。森の豊かな緑はさまざまな恵みをもたらすだけでなく、水源として広く地域を潤し、豊かな海を育みます。

歴史の恵みに抱かれて

本町は、古くから陸と海の交通の要衝として人びとが行き交ったところです。街道や港に行き交うたくさんの人びとが地域を創り、豊かな人間性を育んできました。また、北前船などは、他には見られないこの地域特有の歴史文化です。こうしたさまざまな地域の歴史的資源を活かした、個性あるまちづくりを創意と工夫により実現していきます。

出会いから活力の花ひらく町

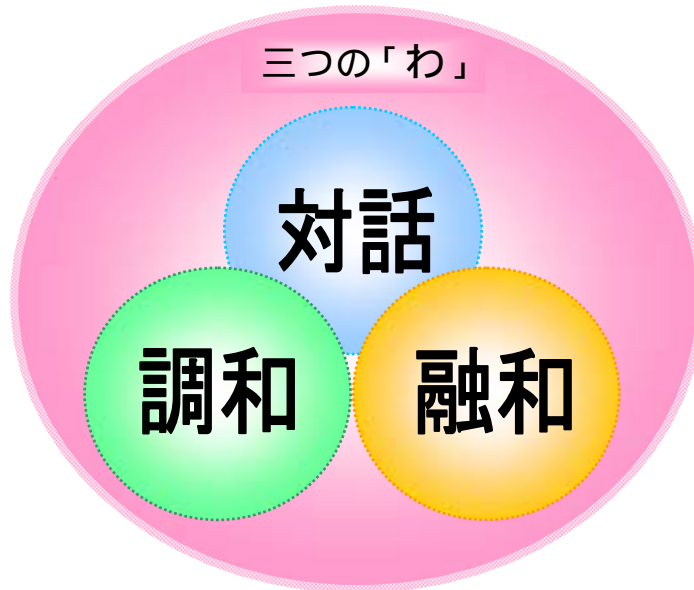
新しいまち、新しい「出会い」からはじまります。「出会い」から多様な個性が花ひらき、すべての人が元気でいきいきと暮らすことができる、活力あふれるまちを目指します。

「まちづくり」

まちづくりの主体はこの地域に住むすべての人びとです。性別や年齢などにかわりなく誰もが意欲を持って、自らの力を発揮でき主役になれる、人にやさしいまちを創ることが大切です。このため、町民と行政が協働し、町民の多様なアイデアを活かすことのできる仕組みをつくり、一人ひとりのさまざまな可能性が広がるまちづくりを目指します。

2 まちづくりのキーワード

基本理念である「海と緑と歴史の恵みに抱かれて、出会いから活力の花ひらく町」を追及し、合併による効果を最大限に発揮しながら新しいまちづくりを進めていくキーワードとして、「対話」、「調和」、「融和」の三つの言葉を施策展開の基本として掲げます。



「対話」

町民と行政、町民同士、行政内部がよく話し合うことにより、より広く、より深い視点でさまざまな施策に取り組み、町民参加となる行政展開に努め、話し合うことによる意思疎通を大切にしまちづくりを行います。

「調和」

それぞれの地域が培ってきた歴史や伝統、文化、気風について、お互いの違いを認め合いながら、全体が程よくつりあってまとまりながらまちづくりを行います。

「融和」

それぞれの地域や人々には、さまざまな意見や考え方がありますが、町民の心を溶け合わせてひとつにしながらまちづくりを行います。

これら三つの言葉をこれからのまちづくりや施策の企画立案のキーワードとして施策展開の基本としていきます。

第2章 計画の基本指標

1 定住人口の目標

本町の人口は、昭和35年から山間奥地集落の町外転出や若者の都市への流出によって大きく減少しました。昭和50年代に入って幾分緩やかになったものの少子化現象や依然続く若者の流出などによって、減少傾向は続き、平成17年の国勢調査によると、当町の人口は12,274人となっています。

人口の推移を見ると、全国の人口は、現在の1億2千8百万人をピークとして、以後長期の人口減少過程に入ると予想されています。国立社会保障人口問題研究所が発表している将来人口推計と平成17年の人口を比較してみると、平成27年には全国で1億2千6百万人(1%減)、福井県で80万1千人(2%減)、南越前町は11,652人(5%減)となっています。

今後は、多様な就業機会を開拓し、I・Uターンの増加を促すとともに、若者の定住意欲を高め人口の流出を抑制し、保健福祉事業の充実による少子化対策等により人口の減少を最小限にとどめます。

このため、平成28年度における定住人口は12,000人を目標とします。

平成28年度(2016) 定住人口目標 12,000人



2 交流人口の目標

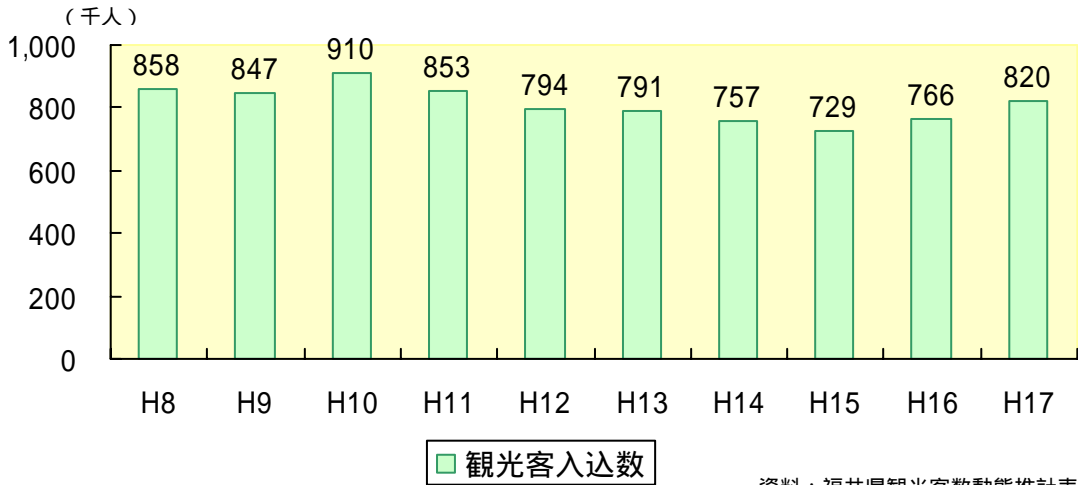
交流人口とは「まち」に住む人だけではなく、産業、文化、レクリエーションなど様々な分野で人々が活発に交流することによって、その「まち」に与える経済効果などから「まち」の活力を評価するもので、年間の観光客入込数を基礎に設定します。

本町の近年における観光客入込数は、平成 10 年の 91 万人をピークとしてその後減少しましたが、平成 16 年から増加しており、平成 17 年は 82 万人でした。

今後、本計画の交流推進施策の展開によって、平成 28 年度における交流人口は 100 万人を目標とします。

平成 28 年度（2016） 交流人口目標 100 万人

■ 観光客入込数の推移



3 土地利用の方向

土地は、現在および将来における町民のための限られた資源であることを認識し、森と海と里の美しい自然環境をそこなうことなく、住みやすさを高めていくことを目標に、無秩序な開発を抑制し、町全体の均衡ある適切な土地利用を進めます。

地域バランスのとれた機能配置

地域の均衡ある発展を促し、地域間格差が生じないような各種機能の配置に努めます。

既存施設の有効利用

既存施設を生かしたコミュニティの形成を図るとともに、新たな施設計画については、町内のバランスと施設の重複を避けた効率的な整備をします。

地域の魅力づくり

若者の定住を図るための雇用の促進や住宅の供給、および文化やスポーツを充実します。

道路ネットワークの整備

役場と2つの総合事務所を結ぶ基幹道路を中心に、道路ネットワークの整備を推進します。

第3章 ゾーニング別まちづくり

1 まちづくりエリア

街道と海岸に沿うこの町の特性を活かしたまちづくりを推進するために、南越前町まちづくり計画（新町建設計画）に設定した5つの「まちづくりエリア」を継承します。

「水の生まれる森」エリア

南東部の岐阜・滋賀県境にまたがる森林地域は、水源として広く地域を潤す「水の生まれる森」と位置づけます。この森は、林産資源や水源かん養など環境調整機能のエリアとして保全するとともに、観光や環境教育の場として、環境に配慮した整備を図ります。

「歴史の街道」エリア

木ノ芽峠、栃ノ木峠に至る街道に沿った山間地は、「歴史の街道」エリアとして位置づけます。北陸道や北国街道の宿場町であった今庄や板取など、かつて多くの人々が行き交った歴史を伝える街道の街並みを、町民の参画を得ながら保全するとともに、地域の歴史文化を次世代に継承する場として位置づけ、歴史的価値の高い建造物の保存と活用、「歴史街道」をテーマにしたイベントの開催など、先人から継承した歴史文化を活かしたまちづくりを進めていきます。

「海を育てる森」エリア

ホノケ山を中心とした西部の山間地は「海を育てる森」のエリアとして位置づけます。この山間地から流れ出る河野川は、河野海岸へ至り豊かな海を育みます。漁業関係者や町民の協力を得ながら、海洋資源を守り豊かな海を育む森林の保全を図るとともに、ホノケ山への登山道を、歴史への理解を深めるレクリエーションの場として活用していきます。

「越の海文化」エリア

西部の河野海岸線一帯は、「越の海文化」エリアとして位置づけます。定置網漁業を主として営んでいる漁業は、稚魚や稚貝の放流、魚礁の設置などによる資源管理型漁業を積極的に推進します。また、海水浴やスキューバダイビング、体験漁業など海と親しむさまざまな体験型観光の振興を図ります。さらに、北前船主の館「右近家」を中心として北前船の歴史文化を活かしたまちづくりを進めていきます。

「安らぎとうるおいの里」エリア

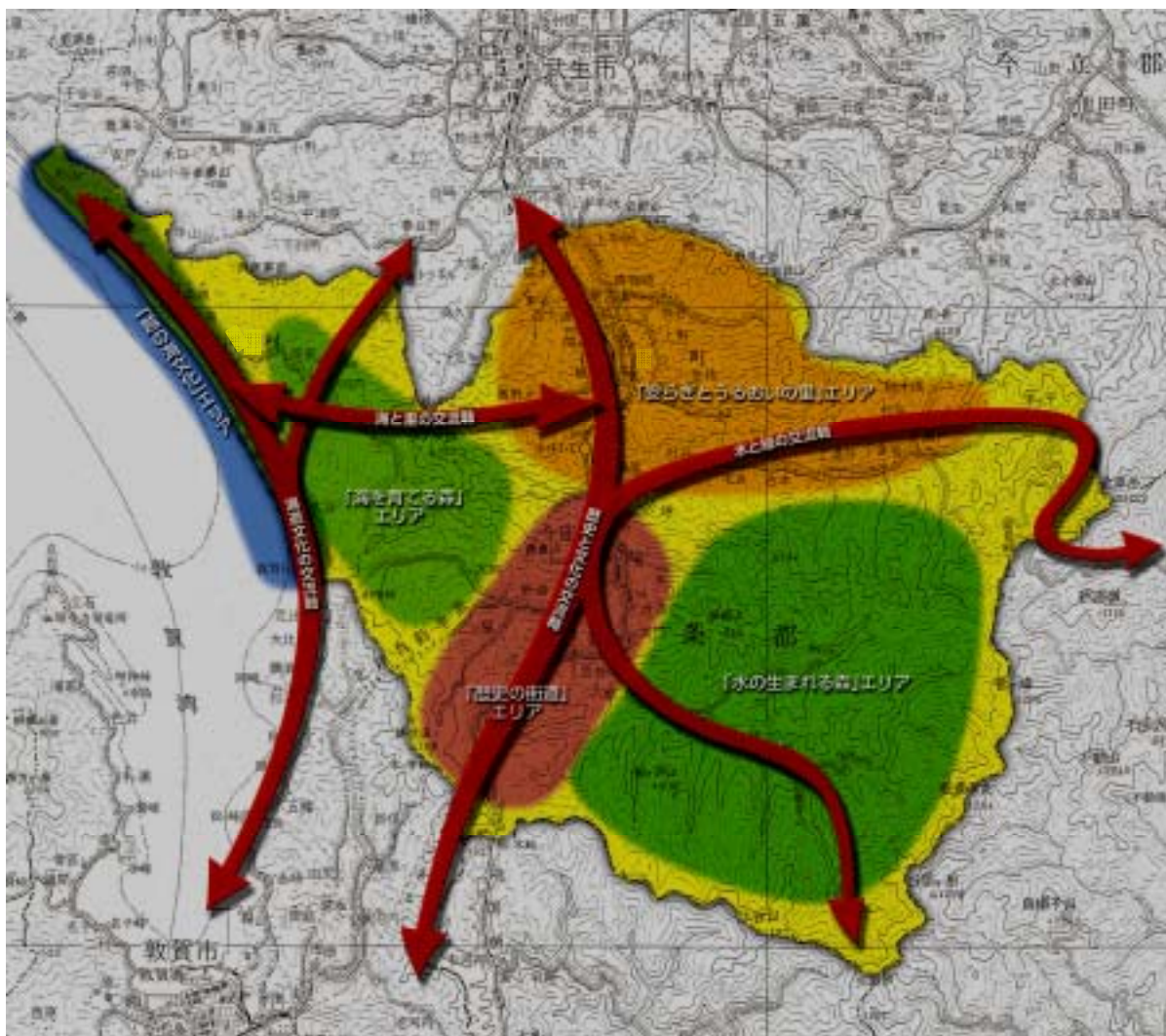
田倉川流域から南条地区までの市街地周辺に至るエリアは、山と里が会う「安らぎとうるおいの里」として位置づけます。この地域は、水田農業を主力に、花はすやそばなど土地利用型の生産性の高い農業が営まれており、新しい町の農業生産の中心エリアとして、付加価値の高い新しい特産品の開発を図るなど多角的な農業展開を図っていきます。また、中山間地の特性を活かし、地域の自然と生活に触れることができる農業体験施設などの積極的な活用を図っていきます。

一方、北陸自動車道今庄ICを中心に、複数の企業が立地し、地域の雇用が確保されています。今後とも交通の利便性に恵まれた地域特性を活かし、新たな企業の立地を促進します。

また、新しい町の中核となるエリアであることから、有機的で活発な交流が生まれる市街地の形成を図っていきます。

まちづくりエリア・交流軸

南越前町まちづくり計画（新町建設計画）を継承



2 まちづくりの交流軸

街道と海岸に沿うこの町の特性に合わせて、4つの軸を設定し、地域内の交流の活発化、隣接地域との連携を深めます。「まちづくり交流軸」も「まちづくりエリア」と同様に南越前町まちづくり計画（新町建設計画）を継承しています。

海と里の交流軸

国道305号はホノケ山トンネル（仮称）早期開通によって、海と里をつなぎ、人と人との交流を生み出し、さまざまな地域の産物の往来を可能にする地域経済の活性化にも大きく貢献する道となります。このため、国道305号の整備を新町発足の根幹をなす最重要事業として位置づけ、早期開通を目指します。また、幹線道路の整備による交通量の増加が予想されるため、地域内の安全な交通を確保するために生活道路や交通安全施設等の整備を図ります。

歴史と文化の交流軸

国道365号、国道476号は北国街道、北陸道として古くから人々が行き交った道です。これらの国道は、現在も関西・中京圏へ連絡する重要な動脈であり、今後とも安全性を重視した機能性の高い広域的幹線道路として整備を進めていきます。

また、一般県道中小屋武生線は、交通混雑する国道365号を補完する交流軸として整備を進めます。

北陸自動車道は、地域外と連絡する重要な広域高速交通の基盤であり、JR北陸本線は、町民の生活に密着した利便性の高い公共交通機関として、それぞれ重要な役割を担っています。

海遊文化の交流軸

河野海岸有料道路から国道305号に至る海岸沿いの道は、国道8号と並びこの地域の重要な動脈です。特に、海岸沿いに走る国道305号は、町民の日常を支える重要な生活道路であるとともに、豊かな海の恵みに育まれた漁業や観光の振興を図る上において重要な役割を担っています。また、隣接する市町との交流を円滑に促進するため、県道、町道の整備を進めます。

水と緑の交流軸

田倉川から日野川本流に至る国道476号と一般県道広野大門線を「水と緑の交流軸」として位置づけます。「安らぎとうるおいの里」エリアと「水の生まれる森」エリアを連絡するこのルートは、2つの谷の交流を促進するだけでなく、農林業の生産性の向上、森林資源を活用した観光振興を図るためにも重要な役割を担っています。

第4章 まちづくりの5つのプロジェクト

基本理念である「海と緑と歴史の恵みに抱かれて、出会いから活力の花ひらく町」の実現に向け、行政と町民が一体となって新しいまちづくりにとりくんでいくために、5つの目標を掲げて、分野ごとに施策や事業を展開します。

1 みんなで助け合う優しいまちづくり

健康な心と体づくり、保健・医療・福祉・介護の連携強化と充実

健康に対する意識の啓発や健康診査の実施など、健康づくり支援体制の充実を図るとともに、高齢者福祉をはじめとしてすべての福祉事業をサポートする地域支援体制を構築します。また、医療・保健福祉施設の計画的な整備とサービス内容の充実や専門スタッフの確保を図ります。

地域で暮らせる高齢者福祉の充実

高齢者が住みなれた地域で生活できるよう在宅福祉サービスや地域支援事業の充実を図り、高齢者の生きがいづくり事業を促進します。

自立を支援する障害者福祉の推進

障害のある人の自立を支援するために相談支援機能の充実や日常生活支援体制を整備するとともに、社会参加を図るために雇用就業の促進や余暇・芸術活動を支援します。

子育ての支援、児童福祉の充実と次世代育成

保護者が安心して就業できる育児環境を整えるため、保育所における保育サービスの充実や子育て支援センターの機能拡充を図ります。また、子供たちを取り巻く環境を整備していくため、児童館活動を推進し地域における子供の居場所づくりに努めます。さらに、子育てに対する意識の向上を図るとともに結婚に対する支援を強化します。

協力し助け合う地域福祉の推進

公共施設のバリアフリー化を進めノーマライゼーション理念を普及することにより、人に優しいまちづくりを推進します。また、ボランティア活動など町民の地域福祉活動参加の推進を図ります。

2 みんなが安心して暮らせる快適なまちづくり

安全な環境づくり

様々な災害の発生を想定し、関係機関との連携による総合的な防災対策の強化に努めるとともに、消防・救急業務や消防団組織の充実を図ります。また、自然災害に備えて、河川や危険箇所の監視に努めます。さらに、交通安全施設の整備や防犯対策の強化を図るほか、消費者保護対策を進め、安全な生活の確保をめざします。

道路交通網の整備

地域間を結ぶ幹線道路の整備促進を図ります。特に国道 305 号は円滑な地域内の相互交流を促進するため、重点整備によるホノケ山トンネル（仮称）の早期開通を図ります。また、町民生活の利便性の向上のため生活道路や住民利用駐車場の整備を進めます。

上下水道の整備

町内全域に安全な水を安定して供給できるよう水道事業の統合をはじめ水道施設の充実を図ります。また、下水未加入者への普及活動に努めるとともに、施設の維持管理を図ります。

自然環境との共生

秩序ある土地利用や啓発活動に努め、自然環境の保全・活用を推進し、自然と共生するまちづくりを進めます。また、産業施策との連携を図りながら、森林の保全と多目的活用を進めます。

住宅・宅地・住環境の整備

若者の定住化や町民の住宅需要に対応するため、町営住宅の管理運営や住宅宅地の整備を推進します。また、降雪時の地域交通を維持するための除雪機械や消雪装置の整備・維持など住環境の向上を図ります。



除雪風景

3 みんなが生きいきと働けるまちづくり

農林水産業の振興

農林水産業基盤の整備充実を図り生産効率の向上に努めると同時に、担い手の育成・確保や効率的な経営の育成により経営基盤の強化を図ります。また、農林水産物を使った特産品のブランド化や流通ルートの開拓により収益構造の向上を支援します。さらに、地産地消の推進により、地場産物の地域内での消費の促進を積極的に進めていきます。

商工業の振興

商店街と一体となった基盤整備を進めることにより、魅力ある商店街づくりを推進します。また、農林水産業や観光業と連携した付加価値の高い商品の開発を進め、オリジナルブランド作りを促進します。さらに、交通アクセスなど立地条件の優位性を活かし、優良企業の誘致と雇用・就労機会の創出を図ります。

観光の振興

名所や旧跡、特産物など多様な観光資源を活用し、新しい観光ネットワークの構築を進め、観光施設の基盤整備をすることによって、周遊、滞在型の観光地づくりを進めていきます。また、多様な観光 PR 手段による効果的な情報発信を展開し、個性を活かしたイベントの開催を検討します。



越前海岸（漁港）



今庄 365 スキー場



夜叉ヶ池



花はす公園

4 みんなで人と文化を育むまちづくり

豊かな人間性を育む教育の充実と環境の整備

就学前の教育や保育を充実し、保護者との連携を強化していきます。また、学校教育においても児童一人ひとりに対応したきめ細かい指導とボランティア活動による特色ある学校づくりを推進します。さらに、安全な教育環境を確保するため、学校施設や設備を計画的に整備すると共に、地域や家庭での教育に関する相談体制づくりを推進します。

共に活躍できる人づくり、まちづくり

人権教育をはじめ、様々な差別の撤廃に向けた意識啓発を推進するとともに、女性が積極的に活躍できる風土の醸成を図ります。

生涯にわたる学習社会の充実

ライフステージに応じた多様な学習機会を提供し、自発的な学習活動を支援するとともに、生涯学習施設である公民館や図書館などの機能拡充を進め、生涯学習環境の充実に努めます。また、年齢や体力、目的に応じたスポーツの普及を図るとともに、スポーツ施設の効率的な維持管理に努めます。

歴史文化の継承と芸術文化の振興

地域に伝わる伝統的な歴史文化を継承し、それらの活動を支援するとともに文化財の調査や保存に取り組みます。また、芸術・文化団体やサークルなどの活動を支援し、芸術・文化の鑑賞機会や活動の場の拡大に努めます。



北前船主の館右近家



木の芽峠

5 みんなが考え、みんなで取り組むまちづくり

町民と行政の協働によるまちづくり

魅力ある活力にあふれた地域づくりを進めるために、町民一人ひとりが自らまちづくりを担う町民自治を推進すると共に、町政に幅広く参画できる仕組みを構築します。また、町民の意見を町政に反映していくため、意見交換の場や機会を充実し、行政情報の積極的な公開を図ります。さらに、ケーブルテレビのデジタル化など生活を支援するインフラ環境整備を行います。

行財政改革の推進

行政課題の多様化や地方分権の動向に迅速に対応した行財政運営を推進するため、事務事業の見直しや合理化を進めるとともに、公共施設の統廃合や行政組織の見直しを行います。さらに、定員適正化計画を着実に実行し、受益者負担の適正化を図るとともに窓口サービスの充実や行政事務のIT化を推進します。これら行財政の抜本的な改革を行うことにより、質の高い行政運営や強固な財政基盤を確保します。



ヤシャゲンゴロウ



河野海岸「奇岩」

四季の花 春



しゃくなげ

夏



はす

秋

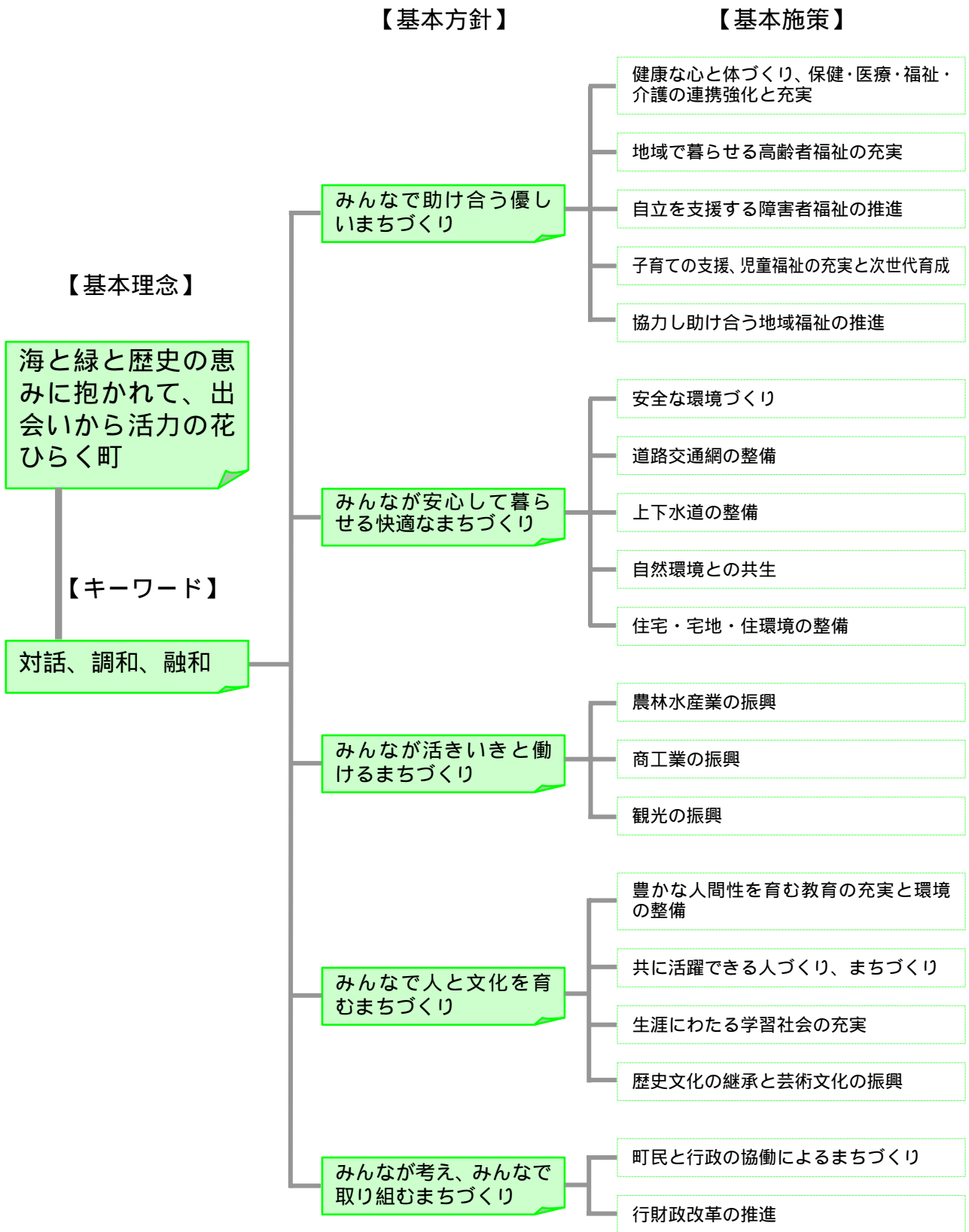


そば

冬



水仙



心のバリアフリーに富んだ町

河野中学校二年 右近真紀子

新しく誕生した「南越前町」のいち町民として私は思った。「これから、いったいどのような町に発展していくのだろうか。」

と。その中には不安と期待とが交錯していた。でも、とりわけ期待の方が大きかっただろう。

まだまだ合併したばかりの町だが、これから未来に向かって町民の手で明るい未来をきり開いていくのだろうと町民皆が願っているだろう。そして町民一人一人が、未来の南越前町を頭にえがき生活をしていることだろう。そして、私もそのなかの一人であるという事は確かなのだ。

そんな私も、子供ながら理想というものはもちあわせている。…私の理想の町…、やはり「誰もが居心地よく住みやすい町」が私の理想とする町だ。さて、理想を現実にするにはどうしたらよいか。理想を理想だけで終わらせないためにはどうしたらよいだろうか。私は考える。自分自身の住みやすい町を。家族の住みやすい町を。高齢者の方々の住みやすい町を。障害をもっている人達の住みやすい町を。

このバリアフリーで救われている人も多いであろう。しかし、私は見た目だけ、外見だけが良くなればよいとはとても

思えない。本当に障害者、高齢者の方々が望んでいるのはもっと別のことではないだろうか。今、障害者、高齢者の方々が必要としているのはもっと他にあるのではないだろうか。それは、高齢者の方々、特に障害者の方々を偏見、差別する人間達の心の变化だと私は思う。つまり、施設はどんどんバリアフリー化しているが、それに伴い、不自由なく暮らしている私達の心のバリアフリーが全く富んでいないのが問題なのだ。

もし、両手いっぱい大きな荷物をもっているお年よりの方が大変そうに歩いていたらあなたなら手をさしのべますか。

もし、目の不自由な方が歩いていてその前に自転車をとめてあった場合、あなたは声をかけることができますか。

たいていの人はきつと「怖いから」などという不純な理由から行動を起こすことができないのではないだろうか。そう言う私も行動を起こすことのできない一人なのかもしれない。でも、もし、その一線をこえるほんの少しの勇気があれば、もっともっともっと今よりはるかに高齢者、障害者の方々に明るい未来が見えてくるのではないだろうか。そして誰もが居心地のよい住みやすい町になるのではないだろうか。町民一人一人の心のバリアフリーが町づくりの大進歩となることをいち町民の私は心から願う。